

■今月の特選句



### 迷ひなき万緑を見よロダン像

渡部美香

ロダン像は「考える人」ですね。悩んでいるのだらうと、激励する句になった。くよくよしなさんな、万緑の力強い緑の覇気を見てごらんなさいと。



### 壺焼きの蓋を死守する馬鹿力

田村米生

蓋が取れないのは貝が抵抗しているからとは知らなんだ。「蓋を死守する」と褒めておいて「馬鹿力」で呆れてみせ、裏切り構成になっている。



### バーコード外し退院山笑ふ

白井道義

コロナ禍の入院の無味乾燥が、バーコードに象徴されている。今の時代をうまく詠みこみ、「山笑ふ」に退院の解放感や安堵感が凝縮されている。

## ■今月の特選句



## いななきはファンファーレなり春の駒

日根野聖子

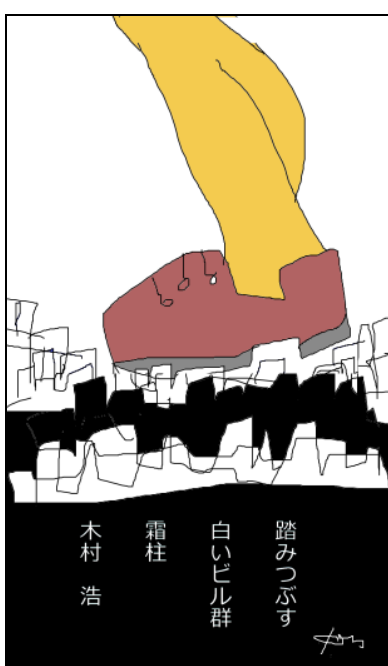
いななきは馬の言語であり歌声である。馬は春到来の喜びを伝えているのだ。ファンファーレなりと言い切った思い切りの良さに滑稽味がでた。



## 風止めばはらぺこになり鯉幟

森岡香代子

とても素直な擬人化の句である。擬人化は対象になりきってこそできるものだが、この句の場合は、作者自身も空腹だったのかもしれないね。



## 踏みつぶす白いビル群霜柱

木村 浩

「踏みつぶす白いビル群」で、何事だろうと驚かせておいて、「霜柱」で種明かし。破壊欲求が満たされる快感と、ものを壊す罪悪感もちよっぴり。

## ■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

薫風に逆らい孫の初ヒット ・・・打つた孫より爺が喜び	長井知則
花々の食べ過ぎご注意蝶々さん ・・・蝶々さんのメタボ心配	大林和代
枇杷の実のポポと灯されみる夕べ ・・・再生可能エネルギーだな	桑田愛子
「皆元気か」と墓地のつくし ・・・俗世気遣ふ土筆が祖先	鈴木和枝
風船も描かれし顔も萎みをり ・・・息吹きこんで皺もきれいに	鈴鹿洋子
新聞に包まれポストに初蕨 ・・・筍だけは入らないのよ	石塚柚彩
永き日の悟空は釈迦の手を出れぬ ・・・時間浪費で名は損悟空	小林英昭
よきことの「吉」の字蔭の薑の中 ・・・草冠の下に隠れて	山本 賜
牡丹に聞いてみたいな美の秘密 ・・・芍薬さんにも聞いてあげなよ	吉川正紀子
つばめらの宙返り里帰りうれしくて ・・・羽で喜び自在に表現	小笠原満喜恵
北窓の開かぬままのミステリー ・・・その人の名はミス・テリーだな	井口夏子
着飾りし母号泣の卒業式 ・・・普段は見ない涙とよそゆき	壽命秀次
心の重さ計れぬ程の五月闇 ・・・五月の闇にLEDを	岡田廣江

## ■今月の滑稽句

\* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

柳絮とばししだれ柳を搔い潜る	相原共良
春の月この叢雲を吹きとばせ	相原共良
土付きの山独活レシピ添へられて	相原共良
嫁姑永久不滅蟻地獄	青木輝子
なめくじり跡消す修正液がない	青木輝子
賃上げの焼け石に水四月尽	青木輝子
春の夢短縮授業のために覚む	赤瀬川至安
禅寺の斎膳飾る目刺かな	赤瀬川至安
目借時腰痛治療電子音	赤瀬川至安
菊の御紋の靖国に散る桜かな	荒井 類
桜餅泣かずに注射できたらね	荒井 類
芽起しの弾雨ほしがる木々はなし	荒井 類
トンネルを抜ければそこは新緑ゾーン	井口夏子
船とバス乗り継ぎすいすい春の旅	井口夏子
春狂乱人が野獣に変るとき	池田亮二
新成人モンローウォークも十八から	池田亮二
春の夢通学電車に乗り遅れる	石塚柚彩
ひよろひよると四年目も咲くカーネーション	石塚柚彩
騒がしき世相のように百千鳥	伊藤浩睦
呼子鳥野鳥会も知らなくて	伊藤浩睦
貌鳥や群れは美男と美女ばかり	伊藤浩睦
初燕人の住まない家一軒	稲沢進一
振り向けば空暗くなる春の泥	稲沢進一
叩かれて空暗くなる藪蚊かな	稲沢進一
パステルカラーがしやしやり出て立夏	稲葉純子
初夏やジョーロの水も迸り	稲葉純子
暑気払ひたつぶり七味ふりかけて	稲葉純子
緋鯉だけ隣家に休む鯉のぼり	井野ひろみ
燕の巣電車気にせず駅庇	井野ひろみ
こいのぼり揺らす四万十の五月晴	梅野光子
春暁の空水彩で描かれる	梅野光子
春の風あちらこちらの香をあつめ	梅野光子
梅雨入や印刷文字に濃淡が	遠藤真太郎
田植歌手を振り見送る霊柩車	遠藤真太郎
新緑に語るも涙トム・ドゥーリー	遠藤真太郎
公園の若葉ひらいて句碑を読む	大林和代
流木に休む亀たち日永かな	大林和代

新緑の精の在はせる天仰ぐ  
 どんなにひどいか誰に話さう春驟雨  
 蜘蛛の糸葉つば操る真犯人  
 人間がストンと落つる春の闇  
 討入のつもりが猫から返り討ち  
 セレモニーネクタイ垂らし半ズボン  
 豆と箸吾子との練習忘れまじ  
 怪物に変身するぞ霜柱  
 すみませんいつもの口癖万愚節  
 タンポポの絮吹いている母子かな  
 鯉幟プカプカカーブ首位なれや  
 遠蛙ベートーベン派モーツァルト派  
 亀鳴くや選挙結果の異常泣き  
 坂登るヒーフハーフと亀が鳴く  
 空泳ぐことを選んで鯉のぼり  
 歩くたび踏みさうになる鼓草  
 落椿つ五線譜に置くフェルマータ  
 おじさんがちょうちょを肩に喫茶店  
 椅子取りゲームは取られゲームに五月闇  
 硝子戸を上る蟹股雨蛙  
 花合歓や目覚めの早き一軒家  
 滑らかなヨガの呼吸や茄子の花  
 山桜上を下への大騒ぎ  
 出がらしといはれ茶摘女おかんむり  
 農一途尻に敷かれて畑を打つ  
 竹皮を脱ぐ乙女のやうにかな  
 まつさきに部室覗いて入学す  
 一頁二句の句集や春愁ふ  
 本家より筍届く三回目  
 常備薬追加の追加リバテープ  
 プーチンさんよ緑黄色野菜お食べなさい  
 この筍は猪の食べ残し  
 目を離れた隙に筍ぐいとどのび  
 筍は天に向かつてまつすぐに  
 種俵ねずみが先に試食かな  
 近くより遠くの話蜃気楼  
 聞き流すうわさ彼是百千鳥

小笠原満喜  
 東  
 小笠原満喜  
 東  
 岡田廣江  
 岡田廣江  
 北熊紀生  
 北熊紀生  
 北熊紀生  
 木村 浩  
 金城正則  
 金城正則  
 金城正則  
 久我正明  
 久我正明  
 久我正明  
 工藤泰子  
 工藤泰子  
 工藤泰子  
 桑田愛子  
 桑田愛子  
 小泉和子  
 小泉和子  
 小泉和子  
 小林英昭  
 小林英昭  
 壽命秀次  
 壽命秀次  
 白井道義  
 白井道義  
 鈴木和枝  
 鈴木和枝  
 高岡昌司  
 高岡昌司  
 高岡昌司  
 高田敏男  
 高田敏男  
 高田敏男

瞑想か迷走なのか走り梅雨  
 車てふツールなくして虎が雨  
 ももいろのブランコそらまめハウス前  
 乾杯はコロナビールでオンライン  
 じめじめと傘も嫌がる女梅雨  
 目高にもあるやロミオとジュリエット  
 古里や偉人が眠る桃の花  
 ほっとする出来事春の夢のこと  
 目借時呪術にかかつてしまったか  
 春の夢芥川賞を貴女にと  
 ヒトラーはピストル自殺天の川  
 核を知る唯一の国梅雨に入る  
 ヴィーナスの上腕二頭筋風光る  
 つばくろの啞えし花は青黄色  
 眼鏡でも買ひに行こうか夏近し  
 上がるのは物価血圧揚雲雀  
 今年竹羨ましげに見る爺  
 心地良き下手なピアノや北開く  
 うら若き自画像くすむ春の燭  
 鶯の初音からかふ谷戸の風  
 稼ぐ手をじっと消毒啄木忌  
 忘れ霜鏡を見ればおのが顔  
 そばつゆの山葵まるごとはなに抜け  
 鯉のぼりカープとともに高く舞ひ  
 とりどりにベランダ飾りすみれ草  
 立夏とてダウンベストを手離せず  
 戦争とコロナが競ふ春の逝く  
 平積みのベストセラーや街薄暑  
 母の日の母が子に買ふカーネーション  
 矢車の花の青さと幼さと  
 北山の川辺にひつそり余花は良か  
 少子化で小さい緋鯉なき幟  
 新緑の山やポパイの力こぶ  
 そら豆に出番教えるビールかな  
 砲弾の横をトットト羽抜鶏  
 郵便配達飛脚なみです春の昼  
 鳴きとほす夜の蛙よおやすみよ

高橋きのこ  
 高橋きのこ  
 高橋きのこ  
 竹下和宏  
 竹下和宏  
 竹下和宏  
 田中 勇  
 田中 勇  
 田中 勇  
 田中早苗  
 田中早苗  
 田中早苗  
 谷本 宴  
 谷本 宴  
 谷本 宴  
 田村米生  
 田村米生  
 月城花風  
 月城花風  
 月城花風  
 土屋泰山  
 土屋泰山  
 土屋泰山  
 坪田節子  
 坪田節子  
 坪田節子  
 飛田正勝  
 飛田正勝  
 飛田正勝  
 長井知則  
 長井知則  
 花岡直樹  
 花岡直樹  
 花岡直樹  
 浜田イツミ  
 浜田イツミ  
 浜田イツミ



神亀の水掛け放題に亀鳴かす  
 ペンギンの脱走したる帰雁どき  
 パナマ帽粹に登場八木健氏  
 その羽に命のきらめき春の蠅  
 傍らに夏立つてゐる八十八夜  
 勝利とも言えぬプーチン春愁  
 老いし掌に乗せれば艶めく柿若葉  
 恋の蝶もつれて一つになりけり  
 万愚節IQ高き人騙す  
 秘書室にまれな笑ひや万愚節  
 栄螺焼くその眩きを聞きながら  
 剪定に迷う初心者ミニ盆栽  
 葉桜や淡き緑も目の保養  
 息すれば新緑眩し咽るほど  
 プーチンの顔を睨みつ柏餅  
 校正が煮詰まったならソーダ水  
 柿若葉どれも皿になりそうな  
 修司忌に手にとる本は「書を捨てよ！」  
 来客は子供の子供こどもの日  
 軍事援助筋ならばいくらでも  
 ステップを踏む子笑ふ子朝寝の子  
 猫の子の去つて胡坐の広さかな  
 プーチンは銃ゼレンスキーはチューリップ  
 ひやかせば買はせられたり苗木市  
 春耕や鋤ふるふ漢(おとこ)見当らず  
 亀鳴くやロシアに食はるるウクライナ  
 麦の穂に金のひげあり麦の秋  
 一輪の薔薇にはじまるものがたり  
 もつたないと丹念に粽解く  
 食通をむせさせてゐる麦こがし  
 春宵の価値ルーブルはお断り  
 走り茶を淹れる昭和の急須かな  
 天秤にかけて右手のキャベツかな  
 ひとりぶん持続可能な扇子かな  
 子どもの日指のピストル撃ち合ふて  
 根っからの悪人はなし蕨採り  
 静脈は動脈のやう玉の汗

久松久子  
 久松久子  
 久松久子  
 日根野聖子  
 日根野聖子  
 廣田弘子  
 廣田弘子  
 廣田弘子  
 藤森荘吉  
 藤森荘吉  
 藤森荘吉  
 細川岩男  
 細川岩男  
 細川岩男  
 南とんぼ  
 南とんぼ  
 南とんぼ  
 峰崎成規  
 峰崎成規  
 峰崎成規  
 椋本望生  
 椋本望生  
 椋本望生  
 村松道夫  
 村松道夫  
 村松道夫  
 森岡香代子  
 森岡香代子  
 八木 健  
 八木 健  
 八木 健  
 八塚一青  
 八塚一青  
 八塚一青  
 柳 紅生  
 柳 紅生  
 柳 紅生

やどかりの借家暮らしの能天気  
 立ち枯れてしまわぬようにソーダ水  
 ハイカーのざわつく所に小判草  
 公園を独り占めする子猫かな  
 無重力体験蚕豆畑にて  
 赤は赤ピンクはピンクに香る薔薇  
 バラ色と芍薬色のメイクして  
 静かさに剪定鋏の響く音  
 いい匂いミカンの花の咲く小路  
 一輪の飾らぬがよしカーネーション  
 蚕豆は繭にくるまる蛹のやう  
 鯉のぼり居場所知らせる子居のぼり  
 待ち合わせ場所へとつづくツツジ道  
 夏隣野外ステージのフラダンス  
 少年のロマンは褪せず武具飾る  
 日に出でて光り具合を春の蠅  
 噴水の辺りが赤いブラシの木  
 わくらばや新芽に手を振り風に乗り  
 退院を待っていたよと筍飯  
 ウクライナどこ吹く風の柿若葉  
 石鎚の声聞き揺るる若楓  
 引力に勝てず乳房も藤房も  
 豊太閤ほどな欲なし青瓢(ふくべ)  
 黙食に弱音口つく夏座敷  
 外つ国荒ぶ大地や夏まひる  
 ひたすらに人々祈る聖母月  
 嵐が丘の子羊たちに夏兆す  
 さくらさくら父母よ恩師よ初恋よ  
 春筍やブルドーザーにちよん切られ  
 戦争孤児死語になれずと多喜二の忌

柳村光寛  
 柳村光寛  
 柳村光寛  
 山内 更  
 山内 更  
 山内 更  
 山岡純子  
 山岡純子  
 山岡純子  
 山下正純  
 山下正純  
 山下正純  
 山田真佐子  
 山田真佐子  
 山田真佐子  
 山本 賜  
 山本 賜  
 横山洋子  
 横山洋子  
 横山洋子  
 吉川正紀子  
 吉川正紀子  
 吉原瑞雲  
 吉原瑞雲  
 吉原瑞雲  
 渡部美香  
 渡部美香  
 和田のり子  
 和田のり子  
 和田のり子